ALUMINIUM NEWS
アスカ工業株式会社アルミニウムニュース

第 785 号
2026年11月1日
発　行
アスカ工業株式会社
〒444-0303
西尾市中畑町卯新田上28

第61回アスカ・セミナーは、10月16日（金）昨年に引き続き、三河湾リゾートリンクスにて、一泊研修会を開催しました。

天野卓社長の挨拶に始まり、本館ベルバーグにて尾﨑和久氏の講演の後、迎賓館・風海雅に場所を移して大懇親会が催されました。

第 61 回アスカセミナー

ATの進化と電動化の行方



講師　元アイシン・エィ・ダブリュ社長
尾 崎 和 久　氏

ＡＴ事業の始まり

国内マーケットだけではなく、海外マーケットを視野に入れると、アメリカ等でAT車が主要となっているため、海外輸出するのにはATの開発を始めていく必要があった。

当初はアメリカのものを参考に作られていたので、特許の制約があり、苦戦を強いられていた。米国ボーグ・ワーナーとアイシン精機で合併会社を設立して、米国向けのATを製造する。

アメリカの車は高出力であり、生活スタイルも日本と異なり、長距離運転が主流であった。対して当時の日本車は排気量が小さく、速度を出すためにエンジンの回転数を上げる必要があり、走行時にノイズが大きくなり、日常会話もできないほどうるさくなってしまっていた。

そこで、開発・研究を進めることで、世界で初めてオーバードライブを付けたユニットを開発して世界から注目されるようになった。

その後、直結化で動力伝達ロスをなくすことによる燃費改善や、バラツキの多い油圧式制御から電子制御への切り換えなど開発を進めて高出力への対応をし、世界初へのこだわりを続けた。

その技術をアメリカのjeepやヨーロッパのボルボ、オペルなどの海外車にも展開して、ATの装着率の向上に大きく貢献した。





ヨーロッパ社への採用

1980年代後半、欧州のミドルクラスの車両にも搭載し始めたが、なかなかすぐにはATの普及は進まなかった。欧州車のエンジンルームが手動変速機（MT）専用のために、十分なスペースを確保できなかった。

その為に各社へ発泡スチロールのモデルを送付し、干渉している部分をどんどん削って小さくし、搭載できるように改良し、将来の高容量化や多段化に備えて、信頼性が高く、かつ世界最小の全長をもつコンパクトなATを開発していった。

それぞれ会社ごとにプライドがあり、他社と同じようなものはやりたがらない。トヨタ向けで出している５速ATを出したら、「トヨタが５速でやっているのなら、うちは６速だ」とフォルクスワーゲンに言われた為、欧州と国内向けを並行開発して、初の６速ATを開発し、急激に採用される台数が伸びた。

世界初の８速AT開発

変速の多段化とともに軽量化が求められるようになり、アルミ部品の使用が増加した。

その後、欧州車が７速ATの開発を進めてきたため、国内高級車向けに８速ATの開発を進めた。

高級車にふさわしい圧倒的な戦闘力を持ったATを開発するための３つのコンセプトを掲げた。

①余裕の走り

②スムーズな加速

③軽量・コンパクト

このコンセプトを実現する為に、

・圧倒的な動力性能と燃費の両立

・６速ATと同等の搭載性と質量の実現

・最小要素数で８速を実現

（３プラネタリ、６クラッチブレーキ）

・高級車にふさわしい静粛性の確保

・多段化魅力を引き出す変速性能の達成

以上の５つを達成できるよう開発を目指した。

ギヤノイズや短期開発といった課題があったので、SKAT推進リーダーを中心とした開発初期からの三位一体活動を行った。

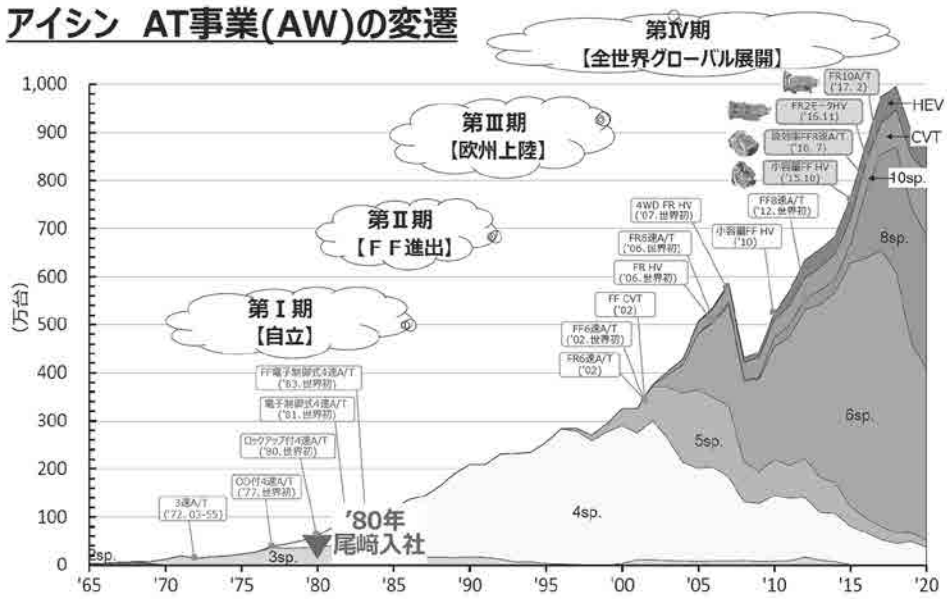
今 後 の 動 向

日本やアメリカのEVの伸びは鈍化し、HVの需要は伸びている。インフラ設備が整わないことが伸び悩みの要因でもある。

今後の電動化について、バッテリーの価格低減と軽量化がもっと進まないと、バッテリー電気自動車（BEV）の普及は難しい。ただ、小型車で走行距離の短かい車にはBEVは有効と考える。

EVはHVやガソリン車に比べて車両本体価格が高価であり、今以上に政府から補助金や高速充電ステーション設置の動きがないと伸び悩みが続くかもしれない。

（文責：永井翔大）



アスカセミナー懇親会



迎賓館・風海雅での懇親会は、岡田専務の挨拶に続き、セミナーご講演いただいた尾﨑和久氏の乾杯でスタートしました。

今回も昨年に続いて、太田英美さん（キーボード）、浅井ゆかりさん（サックス）の演奏があり、会場は大変盛り上がり、どのテーブルも秋の夜の歓談に花が咲きました。

最後に、日本ダイカスト協会理事の石川尚郎氏（三重ダイキャスト工業社長）の中締めのご挨拶で、名残りを惜しみながら散会しました。







サックス・キーボード演奏



中締あいさつ

杉本潤氏 旭日中綬章 受章

令和８年春の叙勲におきまして、長年に渡るダイカスト産業の振興と業界発展、地域貢献への功績が評価され、美濃工業株式会社の代表取締役会長の杉本潤氏は旭日中綬章を受章されました。

杉本氏は、日本ダイカスト協会会長や中津川商工会議所の会頭などを歴任されました。

この度、令和８年10月22日に、名古屋エスパシオナゴヤキャッスル「天守の間」におきまして盛大に「感謝の会」が催されました。（右写真）



社内情報

◎秋の恒例行事アスカ・セミナーは今年も盛大に開催できました。講師の尾﨑様ありがとうございました。

◎翌日の第38回アスカ杯ゴルフコンペの結果は以下の通りです。皆様おめでとうございました。

優　勝　中川雄二（碧海工機）
準優勝　阿部元行（草野産業）
第３位　石川尚郎（三重ダイキャスト工業）BG
ＢＢ賞　菱川真弥（阪和興業）

編集後記

◘今年のノーベル化学賞は元東京理科大学教授のはさみ硤合憲三氏が受賞されました。

◘アメリカの中間選挙の結果が世界に与える影響はどの様なものになるだろうか。

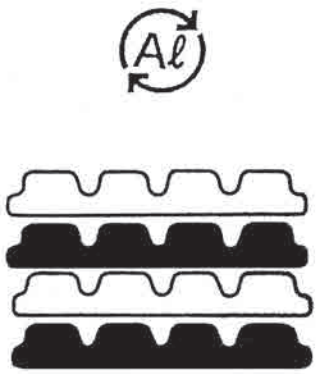
◘中日ドラゴンズの監督に工藤公康氏が就任しました。広岡達朗氏の教えを受けた指導者です。

◘読売ジャイアンツの監督には松井秀喜氏が就任しました。来季のプロ野球は見所満載。

アルミ缶リサイクリング
鋳造用アルミニウム合金地金

アルミニウムそのものでは強さ，加工性などの点で不充分で，銅，シリコン，マグネシウム，亜鉛，鉄，マンガン，ニッケル等を用途に応じて添加合金しますと，非常に優れた強さ，鋳造し易さ，加工し易さ，耐熱性などが得られます。添加金属は非常に微量の場合もあり，そのため厳重な品質管理が要求されます。当社では発光分光分析装置を使用して，迅速・正確な品質管理の下で非常に優れたアルミニウム合金を作り，日本の産業の発展に寄与しています。

ISO 9001 認証取得（KHK-ISO CENTER）
アスカ工業株式会社



〒444-0303
愛知県西尾市中畑町卯新田上28
TEL〈0563〉77－0500㈹
FAX〈0563〉77－0501
http://www.al-asuka.jp/